

## 居場所の現状分析プロジェクト～多様な社会参加の場づくり～

### (1) 会議の開催状況

	日時	主な内容
第1回	9月28日(水) 13:00～15:00	「居場所」の主な対象者のイメージ共有
第2回	11月1日(火) 15:00～17:00	各自が把握している居場所で間口を広げられ そうな居場所の共有
番外編 (見学)	12月6日(火) 12月8日(木)	共有した居場所への見学 →「むぎばたけ」「necoris」見学
第3回	2月22日(水) 10:00～12:00	見学した居場所や「こえる場！」等の共有 プロジェクトの今後の方向性の検討

### (2) プロジェクト参加機関

- ① 阪神南障害者就業・生活支援センター(商工・労働)
- ② 障がい者基幹相談支援センター(障がい)
- ③ メンタルサポートセンター(若者)
- ④ 芦屋市社協(福祉団体)
- ⑤ 自立相談支援事業(生活困窮)
- ⑥ 就労準備支援事業(生活困窮)
- ⑦ 第1層地域支え合い推進員(地域づくり)

事務局  
地域福祉課

### (3) 見学の様子



3世代交流の居場所  
@コープデイズ芦屋 組合員集会室



いきがいを探せる居場所  
@西宮市(地域活動支援センター)

## 居場所の現状分析プロジェクト～多様な社会参加の場づくり～

### (4) 見学からの考察

- ①【既存の居場所の活用】  
どの分野でも「居場所」は課題であり、分野ごとの居場所も必要だが、既存の居場所を他分野と共有することや多世代型に広げることも可能であり、有効である。
- ②【分野ごとに適した居場所の創設】  
居場所では、「敷居の低さ」「役割」が必要であり、同じ困りごとや分野に絞ることが適している場合もある。また、社会的孤立の方の「就労」を目指すステップでは、一定の謝金等が発生する仕組みづくりが求められる。



### (5) 生活困窮者・社会的孤立の方に求められる居場所

- 【段階に適した居場所の創設】
- ・専門職等の手厚いフォローが必要な段階
  - ・地域の居場所などゆるやかなつながりと役割のある居場所
  - ・段階を経て、運営側に周ってもらえるような取り組み
  - ・役割が持てる居場所、活動内容によっては報酬が得られる居場所



### (6) 居場所の現状分析プロジェクトの今後の方向性

- ①【居場所情報の周知】  
・各分野でオープンに出来る居場所情報は、「ためまっが芦屋」等で周知する。
- ②【居場所情報の共有】  
・各分野の専門職や居場所主催者と居場所情報の共有が出来る場の設置。各居場所の「想い」も共有する。
- ③【居場所の創設】  
・各分野が把握するニーズに応じて、分野横断・地域との協働による、居場所の創設に関する検討(既存の居場所の活用含む)

## 多機関協働推進委員会における「居場所プロジェクト」の活動について

### 「生活困窮者自立支援推進協議会」における「居場所の現状分析プロジェクト」

- ・生活困窮者支援から見えてきた課題(社会的孤立・就労機会の創出等)を踏まえた居場所の現状分析を実施
- ・どの分野においても「居場所」が課題であることを認識



### 「多機関協働推進委員会」へ改編

・生活困窮者支援にとどまらず、より幅広い分野・視点での「居場所」に関する情報共有・協議・実践を行うことで、さまざまな人の「社会参加」の支援を行う。

- ▶ プロジェクト名の変更 : 「居場所プロジェクト」
- ▶ 参加者の拡充 : 子ども・教育・まちづくり 分野とも協働
- ▶ オープンな話し合い場としての、プラットフォームづくりを目指す

※「参加支援事業」(社協委託)・「社会参加推進事業」(三田谷治療教育院委託・R5新規)とも連携して取組を推進